

平成28年度 第3回西淀川区教育行政連絡会（中学校）議事要旨

日 時：平成29年2月27日（月）15:30～16:50

場 所：区長応接室

出席者：（中学校）西淀中学校長・歌島中学校長・佃中学校長

（区役所）塩屋区長・橋本副区長・高安教育支援課長・九之池教育支援課長代理・小林教育支援担当係長・若松係員

1 3Dプリンタ期末報告について

○区役所からの報告

（1）3Dプリンタ等の購入について

- ・区役所において3Dプリンタ、パソコン、3Dモデル作成ソフト、フィラメントという材料等を購入した。
- ・操作上の疑問について相談いただけるコールセンターも購入条件に入れさせていただいた。
- ・ソフトは既にパソコンにインストールしている。
- ・材料は1巻きで、3cm角のサイコロが80個ほど作れるようである。
- ・総額で57万円程度、3Dプリンタ本体のみであれば20万円程度である。

（2）教職員対象操作説明会

- ・2月9日（木）・15（水）に教職員向けに操作説明会を開催した。

①3Dプリンタ本体操作説明会

- ・受注業者のリコージャパン株式会社と納入した3Dプリンタメーカーの武藤工業株式会社により、本体の操作方法等を説明。
- ・小学校9名、中学校3名、区役所職員8名が参加し、3Dプリンタの出力方法等の説明後、実際に3Dプリンタで出力した。先生方は3Dプリンタが動く様子をのめり込むように見ていた。

②3Dモデル作成ソフト操作説明会

- ・受注業者のリコージャパン株式会社と納入した3Dプリンタメーカーの武藤工業株式会社、3Dモデル作成ソフトメーカーのアンドール株式会社により、ソフトの操作方法等を説明。
- ・小学校3名、中学校4名、区役所職員4名が参加し、納入したソフト「ぶろっくメーカー」を実際に操作してもらい、3Dモデルを作成する体験を行った。中には、短時間で複雑な立体モデルを作成する先生もいた。

③3Dモデル作成ソフト紹介チラシ

- ・3Dモデル作成ソフトについては、2種類購入している。
- ・今回説明会を実施させていただいたのは「ぶろっくメーカー」といい、「小学校低学年からでも使える」とあるように、ブロックを積み上げていく感覚で操作していく、比

較的簡単に慣れていただけるものである。とはいっても、様々な形が作れ、立体感覚と創造性を小さい頃から育むには最適ではないかと考えている。

- ・もう一つの「シェード3D」については、中学校の技術の先生など得意な先生方向けに準備させてもらった。テキスト付のものを購入しているので、どんどん挑戦していただきたいと思っている。
- ・貸し出しを希望する学校については、説明会資料やテキストブックも含め、パソコン、材料等全てセットで貸し出しさせていただく。また、区役所に来て使っていただくことも可能である。

(3) アンケートの結果

- ・今回も参考になったという声を多数いただいて、うれしく思っている。
- ・参加いただいた先生方は、実際子ども達が使えるのかということ念頭に置いて説明会を受講いただいたようで、「子ども達はのめりこみそう」「こんな使い方であればできるのではないか」など、積極的なご意見をいただいた。また、研究会で活用に向けてまとめていきたい。
- ・パソコン環境を課題としてあげていただいたが、活用方法を検証したうえ、パソコン教室内のパソコンへのインストールにもつなげていけたらと思っているが、これから検討していきたい。
- ・また、全ての学校に操作説明は難しいが、参加したくても日程的に難しかった先生方もおられるので、マニュアル作りも含めどのようにフォローできるか検討していきたい。

(4) 今後の予定

- 3月
 - ・操作時に必要な道具であるニッパーなどの購入
 - ・研究会協力企業の募集方法を調整
 - ・区役所で3Dプリンタのセットから出力までの簡単マニュアルを作成
- 4月以降
 - ・研究会メンバーの募集（企業は継続）
 - ・学校には協力いただける先生を募集させていただく。校長先生でも、その他興味をお持ちの先生でも、どなたが来ていただいてもありがたい。異動などもあると思うが、現在いる先生方含め、新しく異動して来られた先生方の中に興味のある方がいないかぜひ探していただき、お声掛けいただきたい。
 - ・研究会メンバーを優先に貸出を開始。先生方には「何を作ったか」「作成時間はどれくらいか」「何か問題点はあったか」など、課題の洗い出しやモデルケース、マニュアル作成にご協力いただきたい。
- 1学期中
 - ・第1回の研究会の開催

○質問など

(中学校)

- ・ソフトをパソコン教室等で、クラス全員で操作することができるのか。ライセンスはコピーできないのでは。
- ・貸出は3Dプリンタ1台、パソコン1台のみか。
- ・ソフトをインストールしたパソコンがたくさんあれば学校の授業でも使えると思う。
- ・10人程度が一度に操作できるパソコン環境が必要。
- ・3Dプリンタは貸出に対応できるほど耐久性があるものなのか。
- ・生徒達がクラブ活動等で放課後や夏休み中に区役所に来て使うことはできるのか。

(区役所)

- ・ソフトは1本につき1ライセンスなので、コピーすることはできない。ライセンスを増やすには購入する必要がある。現在は、それぞれ1ライセンスしかないが、研究会等で意見を聞いて、ご要望があれば増やすことを検討したい。また、学校で購入してもらうことも可能である。まずは、どのように教育現場で使えるのか検討するため、先生方にたくさん操作してもらいたいと思っている。
- ・メーカーがイベントなどでよく運搬している機種を購入しているので、丁寧に扱えば貸し出しは問題ないと考えている。
- ・先生引率のうえ、区役所をご利用いただくのは可能。

2-1 発達障がいサポーター事業について

(区役所)

平成 29 年度西淀川区インクルーシブ教育応援サポーター事業について（発達障がいサポーター事業からの拡充）

(1) 概要

- ・区長が夏に区内全小中学校を個別訪問し、意見交換を実施した際、サポーター事業の拡充を求める声が多くあったこと、また、障害者差別解消法の施行など国での動きや大阪市としてもインクルーシブ教育を推進していることから、区でもインクルーシブ教育応援サポーター事業として拡充することとした。

(2) 変更点

・対象者の拡充

先生方から対象の児童生徒が増加しているというお話を伺った。また、大阪市全体でインクルーシブ教育の推進が図られていることから、発達障がいの可能性がある児童生徒や特別支援学級に在籍する児童生徒も含め「支援を要する児童」と幅広く捉えることとした。

年間当初の申請時に、支援を要することがわかるように、各児童の状況をご記入いただきたい。

・活動単価の改善について

人材確保の観点より、現在の大阪府最低賃金に引き上げる。

・校外活動における支援の拡充

①校外活動の交通費上限の引き上げ及び支給対象に施設入館料等を追加

昨年8月に実施したアンケートで「交通費の上限引き上げ」「施設入館料などの支援」の要望が多かった。

②校外活動を含めた行事における活動時間の拡大

①と同様、アンケートで要望があった。また、区長学校訪問時にも「小学校高学年以降は、準備から帰り支度まで合わせると7時間は必要」等の意見があった。

(3) 予算

・区の前年度については、全体で前年度比3%カットするように指示が出されている中、区長が先生方の意見を聞き、子ども達の教育環境の充実を図ることが重要という判断から、この事業については削減することなく、大幅にアップすることとした。

(4) スケジュール

・平成29年度年間スケジュール(予定)の説明

・予算上は配置時間の拡充を図るが、年々各校の希望時間が増えている状況であり、全ての要望に応えることができるものではないと考えている。

・学校によっては、今年度当初、発達障がいサポーターの配置時間数が足りなかったところがあると思うが、平成29年度についても年度当初は、申請どおりの配置はできないと思っていたいただきたい。

・ただし、今年度も実施させていただいたように、年度途中の再配置をきめ細かくさせていただき、できる限り有効に分配できるようにしたい。

(5) その他

・教育委員会事務局所管の特別支援サポーター事業と混同されることも多いので、参考に事業比較表を添付している。

・局と区で重複する事業は認められないことから、拡充するにあたって随分説明を求められた。比較表下の太字部分にあるように区の事業は教育委員会事務局事業の補完であるため、両事業をよくご理解いただいたうえ、活用いただきたい。

・特別支援サポーター事業について情報提供であるが、教育委員会事務局に確認したところ、予算決算の乖離が少しあるようである。区の事業と同様、年度当初は希望時間どおり配分されないようであるが、年度途中の追加も可能と教育委員会事務局には確認している。昨年度、西淀川区内でもいくつかの学校が年度途中の申請で配置が認められたので、年度当初の配分が希望どおりなくても、年度途中の再申請を検討いただければと思う。

○質問など

(中学校)

- ・小学校にもスケジュールは示しているのか。
- ・配置申請の締切が3月10日だと、新一年生の必要時間は未確定である。聞き取り等で仮で提出することはできるが、提出時期を遅らすことはできないか。

(区役所)

- ・小学校には先日の教育行政連絡会でお示した。
- ・申請時期を遅らすと、その分決定も遅れることになる。小学校の先生方には4月初旬という早い時期の決定を喜んでもらっている。
- ・新一年生などの未確定部分については、年度途中で再配置や返還を予定しているので、それに対応することにご理解いただきたい。

2-2 学校支援サポーターの募集について

(区役所)

- ・発達障がいサポーターに限らず、いろいろな事業で人材確保に困っているという意見があった。
- ・また、教育会議の委員から「募集されていることを今まで知らなかった」「自分が何かできることがあればお手伝いしたいが、どこで募集されているか知らない」といった意見があったことから、区役所でも協力できることはないか検討した結果、ボランティア等の募集について広報紙へ掲載することを考えた。一覧表を作成し、各校希望するボランティア内容にチェックしていただくことを考えている。
- ・学校により違いがあるとは思いますが、ある程度共通する項目に絞らせていただきたい。
- ・広報紙に掲載するには2か月前には登録しなければならないので、タイムラグがあることはご了解いただきたい。ただし、募集情報を随時見ていただくことや、学校独自の取組で人材募集されていることもあると思うので、区ホームページにも掲載し、また、各校ホームページへのリンクも貼らせていただき、少しでも多くの方の目に触れることができるよう検討している。
- ・今回の配らせていただいた表はたたき台として作らせていただいた。
- ・区役所では、学校にどのようなボランティアが入っているか全て把握できていないため、追加修正などはぜひ校長会でまとめていただけたらと思っている。その後、区役所で中学校と調整させていただき表を完成させたいと考えている。
- ・表完成後、各校にチェックしていただくよう照会するので、早くても6月号広報紙の掲載になるかと思う。

○質問など

(中学校)

- ・有償ボランティアの募集となるのか。

(区役所)

- ・有償無償問わず幅広く募集できればと考えている。

3 民間事業者を活用した課外学習支援について

(区役所)

- ・昨年11月に、市長より「民間事業者を活用した課外学習支援」の実施について、事業拡大の意向が示され、区と教育委員会事務局が連携して事業の積極的な実施を目指すこととなり、これまで先生方にご意見を聞いたり、塾事業者にヒアリングしたりするなどして検討してきた。当区での実施に向けた概要をまとめたのでお示ししたい。
- ・基礎学力向上支援事業「(仮称)西淀川個別復習塾」として、基礎学力の定着、向上を目指す。アンケートの実施などにより、「以前わからなかった学習内容がわかるようになった」と回答する参加生徒の割合60%を当面の目標とする。
- ・対象は、小学校4年生から中学校3年生まで。
- ・基礎学力が定着していない児童生徒には、教科を絞るほうが効果的という塾事業者の意見もあり、教科は英語・数学・国語(小学校は算数・国語)とし、受講者が2教科以上選択できるようにする。
- ・クラス指導ではなく、個々にあった進め方で指導する個別能力対応指導とし、人数は限定しない。事業者の選定は、公募型プロポーザル方式で外部委員による審査となる。
- ・実施場所は、区役所附設会館の2ヶ所(区民ホール・区民会館)とする。東西に長い区であることから、参加者に不公平が生じないようにするためである。各施設週1回開催し、どちらの施設でも受講可能とする。
- ・平日2日(区民ホール1日・区民会館1日)、1回90分で1日2回の時間帯(①17時45分～19時15分②19時30分～21時00分)を設定する。小学生も対象であるため早い時間帯を設定している。週2回受講することも可能。
- ・平成29年10月以降の実施を予定している。

(中学校)

- ・対象者の基準はあるのか。
- ・基礎学力の定着が必要な生徒とは、どこでラインを引くのか。
- ・資料からは受講料について無料に見えるが、塾代助成の範囲内となるのか。
- ・時間帯が夜間になるが、通塾時の事故等について区に責任を問う声が出るかもしれないが、何か考えているのか。
- ・再度、学校での実施を検討する可能性はあるのか。
- ・外部委員はどういった方がするのか決まっているのか。

(区役所)

- ・対象者の限定はしない。区内の小学校4年生から中学校3年生であれば誰でも参加できる。基礎的な学習を復習させることがメインであるため、それを謳って募集することになる。どれだけ集まるか分からない。

- ・受講料については、事業者の提案となり、外部委員が審査をする。塾代助成の範囲内で生徒に還元するようという条件をつけることになる。実施場所はこちらで提供するため事業者としてのコストはダウンし、授業料も安くなることが見込まれる。
- ・区としては、少しでも児童生徒に還元できるよう民間に場所を貸し出すが、通塾時の事故等については、一般の民間塾と同様に保護者の責任である誓約書を取るようになるのではないかと思う。
- ・場所については、現時点では附設会館での実施としており、学校での実施は考えていない。学校での実施だと不登校の生徒が参加しにくいという点もある。
- ・外部委員は未定である。
- ・現時点での概要をお示ししたが、今後実施に向けて詳細を相談させていただきたい。

3 その他

(区役所)

- ・前年度紹介したが、区役所において、図書を通じて多世代が交流する事業を実施しており、区内の図書環境の充実に向けて取り組んでいる。イベント等には、図書に興味のある方は参加されるが、あまり興味のない方も含めて幅広く啓発していく必要があると考えている。教育会議でも、子どもが小さい時から本に親しめる家庭環境が重要であるという意見があり、幼少期の早い段階から親子で図書に親しむことを啓蒙するため、区役所で実施している乳幼児健診等の際に、図書に関するチラシを配付することを考えている。

(中学校)

- ・区の事業として、区内小中学校を対象に漢検を実施することはできないのか。
- ・3Dプリンタ事業の今後の展開はどうなるのか。

(区役所)

- ・漢検については、前年度も要望があったが、各校の加算配付で申請することとなった。多くの学校から要望があれば校長経営戦略支援予算の区担当教育次長枠を活用して実施することは可能である。
- ・3Dプリンタは、プログラミング的思考を具現化する一つのツールである。ツールとしては他にもあり、これからもたくさん出てくると思われる。学校が購入することができるものもあると思うので、3Dプリンタに限らず、プログラミング教育の推進のため、これからも情報共有していきたい。